

令和5年度  
福岡県ノーリフティングケア普及促進事業  
実践報告

## ノーリフティングケア 再取組み

～みんな一緒にリスタート～



社会福祉法人さわら福祉会  
特別養護老人ホーム マナハウス

4年前に「ノーリフティングケアの宣言」、「取り組みを開始」した気になっていた…  
実情は……

悲顔の顔 周りの研修が定期的に出来ていない。

悲顔の顔 研修を受けた 3人のみ で取り組みを進める

悲顔の顔 職員の意識が低く、今まで通りの介助



実は…4年前に「ノーリフティングケア宣言」

きっかけは4年前福岡市主催の「福祉用具専門研修」  
に施設職員3名で受講。 ちょうどその頃……

膝を手術した職員が仕事復帰できるか不安を抱えていた。  
だったら、「働く環境をつくろう！」と

施設長から提案。 低床リフト1台をすぐ導入。

マナハウスのノーリフティングケアが始まる！

その頃の職員の意識

福祉用具は身体に不安がある人が使うもの



なんとなくやっていたノーリフティングケア



施設長の一言：「県の事業に参加しない？」



ノーリフティングケア再始動！！！

まずは…



4年ぶりとなる研修を実施  
協力職員を育成

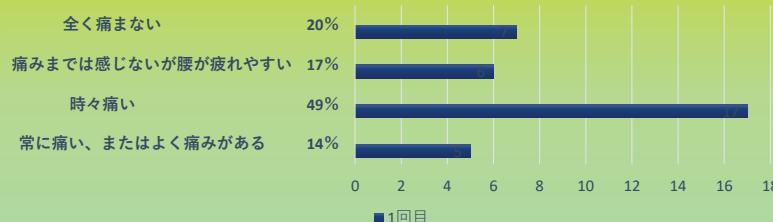


仲間を9名増やし、13名でスタート

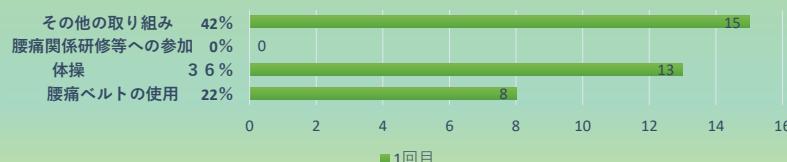
13名が講師として全体へ実技研修を実施

## 6月腰痛調查結果

## 現在の状況（腰痛）



腰痛対策のためにあなたが日頃から取り組んでいることはありますか？

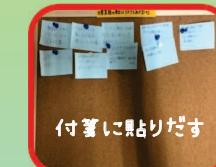


## 腰痛軽減のためにリスクマネジメント

今まででは介助場面でのリスクばかり考えていた  
研修 ↓ 受講して

働く環境にもリスクは転がっているぞ！

フロア毎にリスクの抽出方法を決め、リスクを出す



## 一覧化 (共有)



7 kg  3kg



ゴミを半量以下

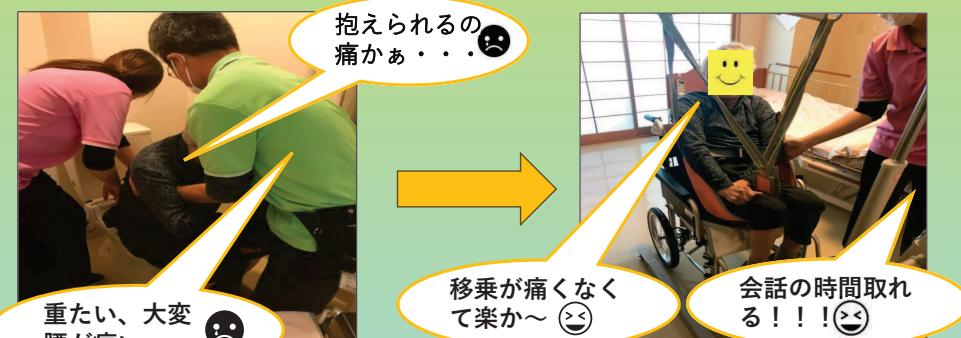
**再取組み後、職員にも変化が！！**

今まで様々な方法を試すが・・

「この方が早い。」 けど・・重労働

「あのスリング使えるかも！」

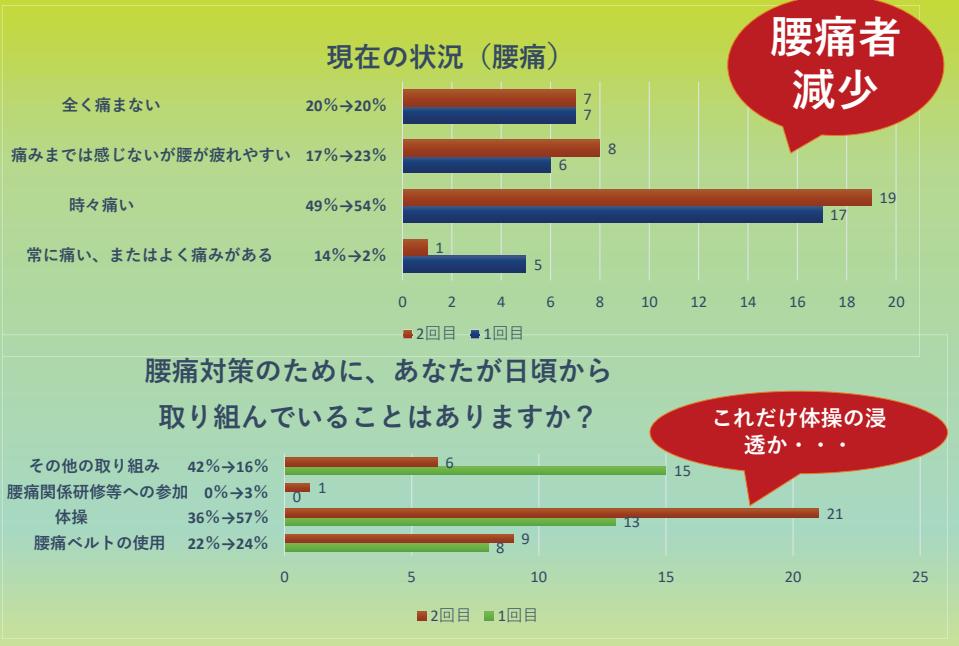
「利用者さんとお話ししながら介助★」



利用者も自然と笑顔になりました☆

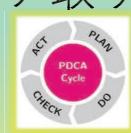
少しずつではあるが職員の意識が変わり始める

# 12月の腰痛調査結果



## これからの課題

- ・腰痛体操の実施が不十分
  - ➡ 腰痛体操が取り組みやすい環境整備  
施設内ジム（manaZAP）設置完成！
- ・腰痛者がまだまだいる
  - ➡ 腰痛者を“0”にする
- ・ノーリフティングケア取り組みの継続
  - ➡ PDCAサイクル



## 特に力を入れたこと

- ◆ 体制づくり
  - 委員会メンバーを含む指導職員の育成
- ◆ 福祉用具ありきのケア
  - リフトやスライディングシートなどをフルに活用
- ◆ 意識改革
  - 
  -



「介助に時間がかかるても腰を守ろう」と言った  
続けた（ケア時間をコミュニケーションの時間へ）



最後に

5人

腰痛減少

1人



施設長がきっかけをくれたノーリフティングケア。

今いる人材が「年齢・体力・怪我」で離職をせず

いつまでも続けられるように（人材を探すのはコストも時間もかかる）、新卒職員の確保の為にもこの取り組みは必須!!!（実習生にもノーリフティングケア体験をしてもらっている）

今回、半年という短い期間の中で

リスタートし、更なる成果が出ている。



スタッフ全員で喜びを共有し、継続させていきます!!!